

観音寺市

古墳ガイドブック

こ ふん たん けん たい **ゴフンスリー** と一緒に

観音寺市の古墳の謎を探ろう!!



古墳探検隊

ゴフンスリー

COFUUN
スリー

観音寺市教育委員会

目 次

1	古墳入門	1
2	観音寺市の古墳は、どこにあるの？	4
3	観音寺市の古墳は、いつごろつくられたの？	5
4	観音寺市の主な古墳・古墳群	6
(1)	鹿隈かんす塚古墳	6
(2)	台山古墳	7
	コラム ：ふるさと学芸館へ見学に行こう！	7
(3)	丸山古墳	8
(4)	青塚古墳	9
(5)	母神山古墳群	10
①	ひさご塚古墳	10
②	かんす塚古墳	11
(6)	興昌寺山古墳	12
(7)	大野原古墳群	13
①	椀貸塚古墳	14
	コラム ：椀貸塚古墳の名前の由来・奥壁 原寸大の模型	15
②	平塚古墳	16
	コラム ：秋祭りでにぎわう平塚古墳	17
③	角塚古墳	18
④	3基の古墳は、どのように変わっていくの？	19
⑤	岩倉塚古墳	21



このガイドブックは、観音寺市にある古墳について小学生のみなさんに学んでもらうために、Q&A形式でまとめたものなんだ。

みなさんが、このガイドブックを活用して、調べたり考えたりしながら、観音寺市の古墳について、興味をもってワクワクドキドキしながら学んでくれることを願っているよ。さあ、探検に出発しよう！！

1

古墳入門

(1) 古墳ってなんだろう？



人々は昔から亡くなった人のためにお墓をつくってきました。弥生時代の終わりごろになると、豪族たちがいろいろな形をした大きなお墓をつくるようになってきました。

古墳とは、王や豪族たちが土をもってつくった昔のお墓のことです。

また、古墳は「塚」ともいい、観音寺市の古墳にも「○○塚」と呼ばれている古墳がたくさんあります。

古墳を真上から見たときの形が円形の古墳を「円墳」、四角形の古墳を「方墳」といいます。また、円形と四角形を組み合わせた形の古墳を「前方後円墳」といいます。

そして、前方後円墳をはじめとする大きな古墳が次々と日本につくられた時代を古墳時代といいます。

観音寺市の主な古墳には、円墳、方墳、前方後円墳、帆立貝形墳の形があります。

円墳



方墳



前方後円墳



帆立貝形墳



コフン・ロボ

(2) 古墳の中は、どうなってるの？



土をもってつくった古墳の中には、亡くなった人がほうむられています。大きな古墳には、石を積み上げてつくった石室があります。そして石室の中に、亡くなった人を納める木や石の棺を入れています。

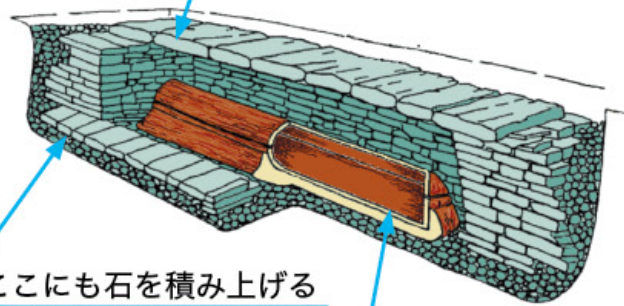
古墳時代の初めから中ごろは、**竪穴式石室**がつくられ、その後は**横穴式石室**がつくられます。このガイドブックで紹介する観音寺市の古墳では、「**鹿隈かんす塚古墳**」のみが**竪穴式石室**で、それ以外の古墳はすべて**横穴式石室**です。

横穴式石室では、棺が置かれた部屋を**玄室**とよび、入り口から**玄室**までの通路にあたることを**羨道**とよびます。石室には、**玄室**（**後室**）と**前室**のある**複室構造**のものと**玄室**のみの**単室構造**のものがあります。

竪穴式石室



天井の石（半分に切ったところ）



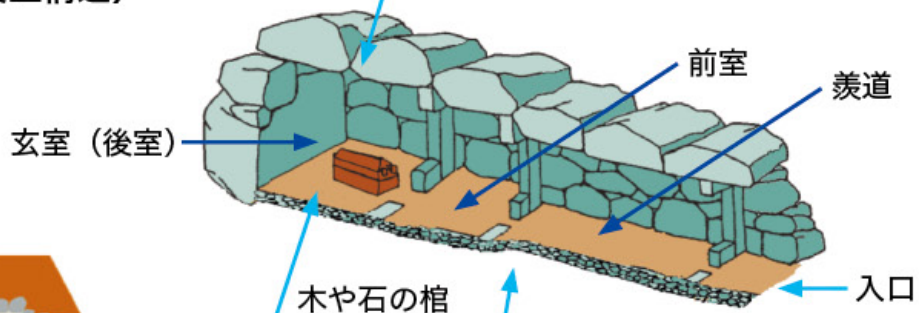
ここにも石を積み上げる

木や石の棺

横穴式石室 （複室構造）



天井の石（半分に切ったところ）



玄室（後室）

前室

羨道

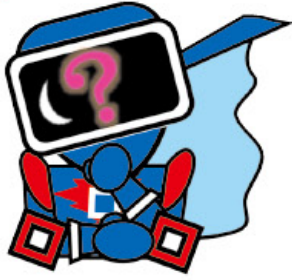
木や石の棺

入口

入口

ここにも石を積み上げる

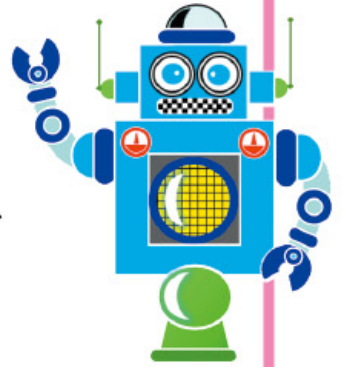
(3) どんな人がほうむられているの？



全国にもたくさんの古墳がありますが、埋葬された人の名前が分かっている古墳は、ほとんどありません。観音寺市の古墳に埋葬された人の名前もわかっていません。

しかし、このような大きな古墳をつくるには、土木工事にたくさんの人々を一度に集めなくてはなりません。また、古墳づくりの技術をもった人も必要です。

そのように考えると、観音寺市の古墳には、広い地域をおさめることのできる大きな力をもった人がほうむられたと考えられています。



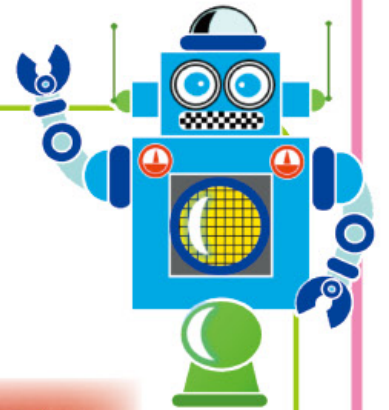
(4) 石室の中にはどんなものがあるの？



棺や石室の中には、銅鏡、剣、首飾りの玉などが納められています。古墳時代の後半になるとしだいに武器や馬具などが納められるようになります。このような品物を副葬品といいます。

石室からは、たくさんのアクセサリーや武具、馬具、農具、須恵器などが見つかり、当時の人々の生活をさまざまな手がかりを残しています。

また、古墳の周りからは、埴輪や須恵器、土師器とよばれる土器が出てくる場合があります。観音寺市の古墳からもたくさんの埴輪や土器が見つかり、古墳のつくられた時期を調べる重要な手がかりとなっています。



2

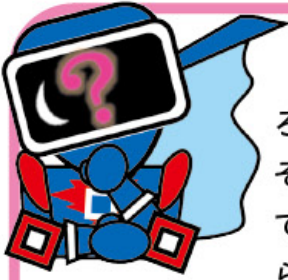
観音寺市の古墳は、どこにあるの？



観音寺市には、たくさんの古墳があります。この古墳マップには、代表的な古墳のある場所を示しています。また、母神山古墳群や大野原古墳群のように、たくさんの古墳が集まっている場所も示しています。

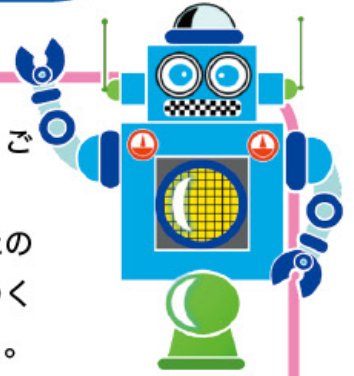
3

観音寺市の古墳は、いつごろつくられたの？



観音寺市の古墳は、4世紀ごろから7世紀の終わりごろにかけてつくられています。

そのころ日本の国ではどのようなことが起こっていたのでしょうか。日本の国の出来事と観音寺市の古墳がつくられたころを、下の年表を見ながら比べてみましょう。



● 国指定史跡

● 県指定史跡

■ 市指定史跡

世紀	時代	日本の国のできごと	観音寺市の古墳
3	古墳時代	邪馬台国の卑弥呼が中国に遣いを送った	
4			鹿隈かんす塚古墳（4世紀）
5	古墳時代	このころ仁徳天皇陵古墳（大山古墳・大仙古墳）がつくられた	台山古墳（5世紀初め） 丸山古墳（5世紀中ごろ） 青塚古墳（5世紀後半） 赤岡山古墳（5世紀後半）
6			ひさご塚古墳（6世紀前半） かんす塚古墳（6世紀後半） 椀貸塚古墳（6世紀終わり） 岩倉塚古墳（6世紀終わり） 興昌寺山古墳（6世紀終わり）
7		飛鳥時代	593 聖徳太子が摂政になる 604 十七条の憲法がつくられた 607 隋に遣いを送った 630 唐に遣いを送った 645 大化の改新が始まった このころ天皇中心の政治のしくみが整った
8	奈良時代	710 奈良に都を移した	雲岡古墳（7世紀後半）

4

観音寺市の主な古墳・古墳群



(1) 鹿隈かんす塚古墳

観音寺市最古の竪穴式石室の古墳

Q1 鹿隈かんす塚古墳とはどんな古墳なの？

A1

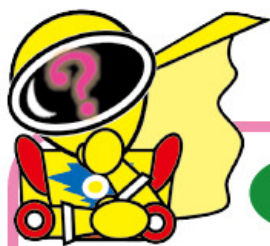
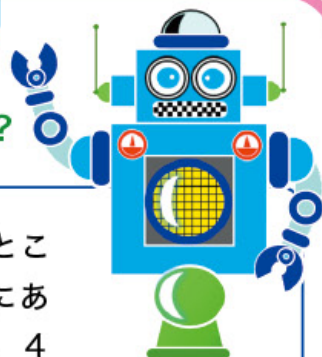
高屋町と流岡町が接する七宝山のふもと、標高50mのところ



鹿隈かんす塚古墳の竪穴式石室

りにあります。観音寺市にある古墳の中では最も古く、4世紀につくられたと考えられています。直径27.6m、高さ3.5mの円墳です。この古墳は、竪穴式石室が2つあり、そのうちの一つから、女性の頭骨が発見されました。

また、この古墳の周辺には、20あまりの石棺があることも分かっています。



Q2 鹿隈かんす塚古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2

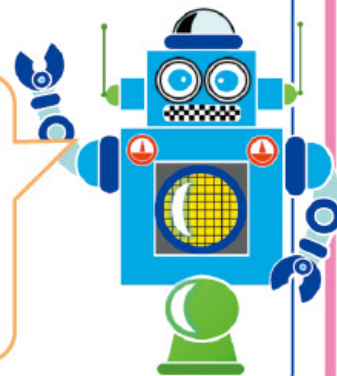
鉄製の斧や剣、銅鏡、ヒスイやガラスでできた玉などが出てきています。

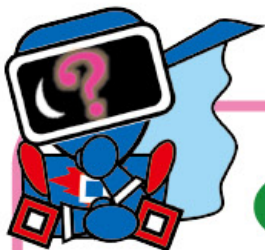
中には「王」の文字が刻まれた鏡の一部も出てきています。この鏡は、3世紀ごろに中国でつくられ、船で運ばれてきたものだと考えられています。



「王」の文字が見える鏡の一部

たくさんの石棺を従え、この古墳の中央にほうむられた人は、この地域の代表的な権力者だったのだらうなあ。





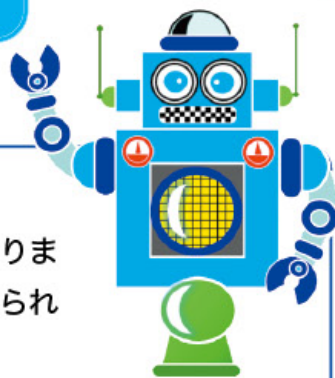
(2) 台山古墳

香川県の最西端にある方墳

Q1 台山古墳とは、どんな古墳なの？

A1

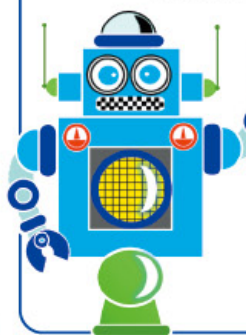
5世紀初めごろに豊浜町の台山につくられた古墳です。
古墳は、海を見下ろすことのできる標高40mのところにあります。調査では、一辺約19mの大きさであり、この時期につくられた方墳は香川県内ではあまり例がありません。



Q2 台山古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2

円筒埴輪や朝顔形埴輪が出てきています。



この古墳は、丸山古墳や青塚古墳よりも前につくられた古墳であり、観音寺市の古墳文化の発展を知るうえでとても重要な古墳です。



台山古墳からの出土品

コラム ふるさと学芸館へ見学に行こう！

旧紀伊小学校跡地に『ふるさと学芸館』があります。そこには考古ゾーンがあり、古墳から発掘された埴輪や土器、副葬品などがたくさん展示されています。ぜひ、見学に行ってみましょう。

『ふるさと学芸館』
(休館：月曜日)

☎ 0875-24-8123

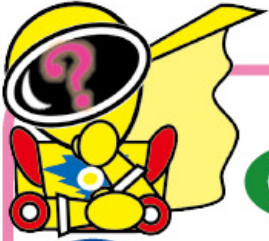


副葬品の展示



埴輪や土器の展示





(3) 丸山古墳

九州産の石でできた石棺のある円墳

Q1 丸山古墳とは、どんな古墳なの？

A1

室本町にある標高40mの丸山の頂上部にあります。

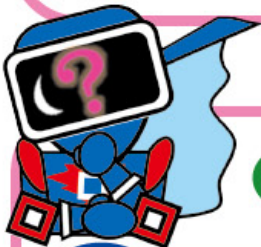
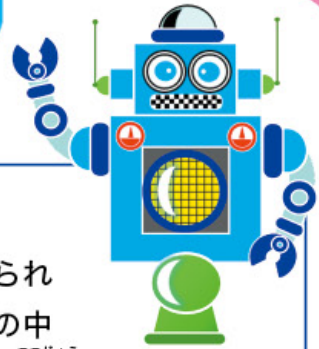
直径35m、高さ4mで、5世紀の中ごろにつくられたと考えられています。中四国地域で最古級の横穴式石室があります。石室の中には石棺が残っています。長さ192cm、幅105cmあり、両端に筒状の出っ張りがあります。石棺のふたは屋根のような形をしています。身の部分は船底形をしており、亡くなった人が納められるように石をくりぬいてつくられています。使われているのは九州産の阿蘇石で、四国では4例しかありません。石に加工したあとが残っていることもこの石棺の特徴です。



丸山古墳の石室・石棺



加工された石棺



Q2 丸山古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2

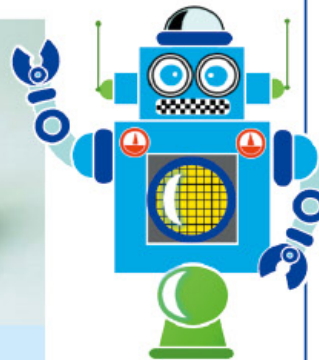
鉄刀などの鉄器が出てきています。そのほかにも完全な形ではありませんが、埴輪には動物をかたどったものもあります。



出土した鉄の刀



出土した動物埴輪



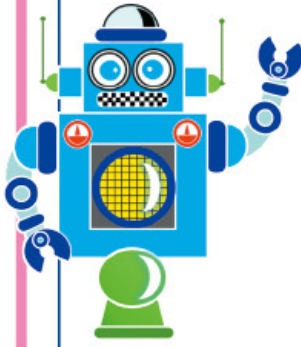


(4) 青塚古墳

九州産の石でできた石棺のある帆立貝形墳

Q1 青塚古墳とは、どんな古墳なの？

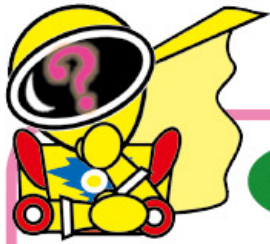
A1 一ノ谷池近くの標高30mのところにあります。



出土した土器や埴輪から、つくられたのは5世紀後半ごろと考えられています。青塚古墳の特徴は、三豊・観音寺地域では数少ない帆立貝形の古墳であるということです。

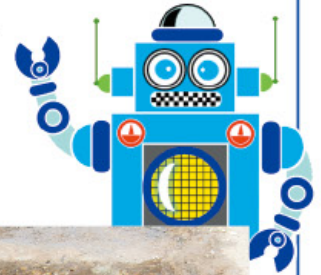


現在の青塚古墳



Q2 青塚古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2 土器や埴輪のかけらが出てきています。また、古墳の周りに置かれていた埴輪の列も出土しており、できた頃には円筒埴輪が並べられていたことが分かります。さらに、石室の中に置かれていた石棺のかけらも出てきました。石の材質は、丸山古墳と同じ九州産の阿蘇石で、九州とつながりがあったことが分かります。また、発掘調査から、周りにはほりをめぐらしていたことも分かりました。

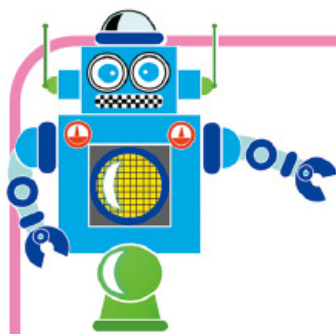


青塚古墳墳丘模型



発掘された埴輪列

(5) 母神山古墳群



観音寺市総合運動公園のある母神山は、三豊平野のほぼ中央にあり、周囲4kmの丘陵で、三豊平野と瀬戸内海を見渡すことができます。

ここには、かつて70基あまりの古墳があったと伝えられていますが、果樹園や宅地などに開発されて消滅したものもあり、現在では、50基ほどの古墳が確認されています。

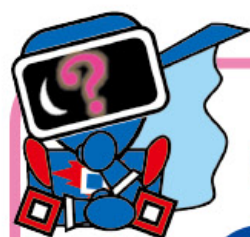
その中でも、前方後円墳のひさご塚古墳と、大型円墳のかんす塚古墳は、母神山古墳群を代表する古墳です。



母神山と代表的な古墳

① ひさご塚古墳

観音寺市唯一の前方後円墳



Q1 ひさご塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1

6世紀前半につくられた前方後円墳で、全長が約44m、高さ約4mの大きさです。

古墳の周りには、ほりをめぐらしているのが確認されています。

ひさご塚古墳の墳丘模型

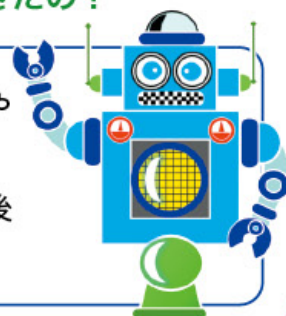


Q2 ひさご塚古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2

過去の発掘調査で、古墳の後円部のあたりから埴輪の破片や須恵器のかめなどがみつかっています。

それらの資料から、古墳のつくられた時期が分かりました。今後の本格的な発掘調査の結果が楽しみな古墳です。





② かんす塚古墳

ふくそうひん ほうふ おおがたえんぶん
副葬品の豊富な大型円墳

Q1 かんす塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1

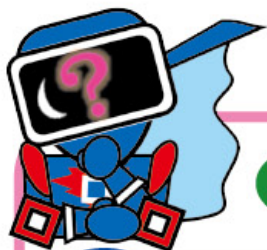
観音寺市総合運動公園

の中にある2段につくられた
大型円墳です。

また、**玄室(後室)・前室・**
羨道からなる特徴的な複室
構造の横穴式石室があり、
6世紀後半につくられた三
豊平野を代表する巨石墳の
一つです。



現在のかんす塚古墳



Q2 かんす塚古墳からは、どんなものがでてきたの？

A2

ガラス玉や金銅製耳環などとともに、**金銅製**の大刀柄頭や
馬鈴、銀製冠立飾りなどがみつかっています。



銀製冠立飾り

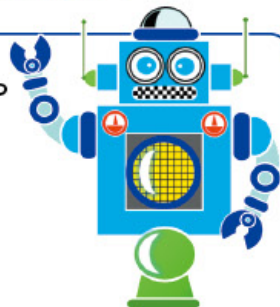


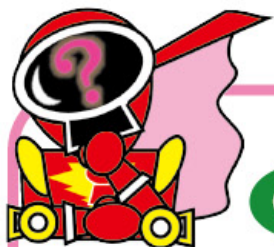
金銅製馬鈴

かんす塚古墳からの出土遺物



金銅製単鳳環頭大刀柄頭





(6) 興昌寺山古墳

せんこくが のこ えんぶん
線刻画の残る円墳

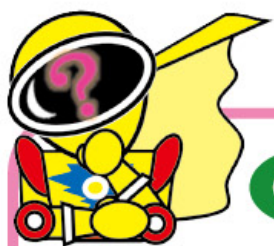
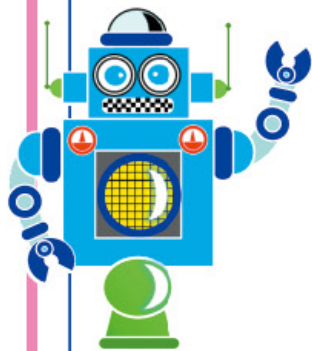
Q1 興昌寺山古墳とは、どんな古墳なの？

A1 有明浜に近い興昌寺山の頂上部の標高75mのところにあります。この古墳は、6世紀の終わりごろにつくられた円墳であると考えられています。

よこあなしきせきしつ
横穴式石室があり、天井には3つの天井石が残されていますが、他は破壊されて失われています。予想される石室の大きさは、全長約7.8mで、げんしつ
玄室の長さは約4.4m、玄室の高さは約2.1mです。



現在の興昌寺山古墳



Q2 興昌寺山古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2 ふくそうひん
副葬品などはほとんど出てきておりませんが、玄室の横壁の石と天井の石に、葉と舟と思われる線刻画が描かれています。

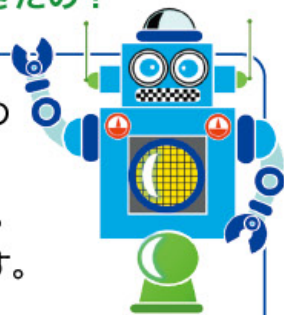
葉は、最大幅が12.7cmで、葉の先が下になって描かれています。また、舟のどうたい
胴体を表現していると考えられる線刻画も残っています。



葉の線刻画



舟の線刻画



(7) 大野原古墳群

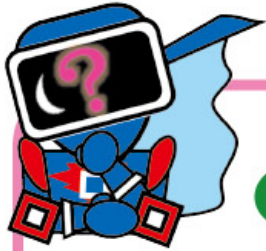
観音寺市大野原町には、3基の大きな古墳があります。これらの古墳は、今から1400年ほど前につくられ、2つの大きな特徴をもっています。

まず1つめの特徴は、3基の古墳が四国内でも最大級の横穴式石室を備えていることです。

2つめの特徴は、椀貸塚古墳→平塚古墳→角塚古墳の順で、半世紀ほどの間に連続してつくられたことです。この期間は、日本の国で聖徳太子が活躍していたころから大化の改新ごろまでの時期にあたります。

このような巨大な横穴式石室をそなえた古墳が、近い場所で連続してつくられている例は西日本でもめずらしく、椀貸塚古墳・平塚古墳・角塚古墳は、平成27年10月7日に国の史跡に指定されています。また、令和2年には、椀貸塚の近くにある岩倉塚古墳も国の史跡に追加指定されました。





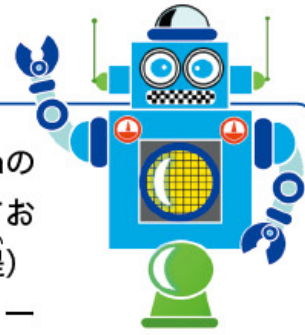
① 椀貸塚古墳

しこくさいだい きぼ よこあなしきせきしつ えんぶん
四国最大規模の横穴式石室のある円墳

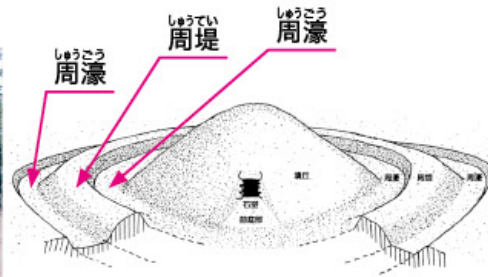
Q1 椀貸塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1

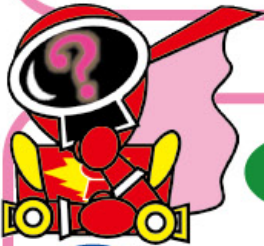
6世紀の終わりごろにつくられた直径37.2m、高さ9mの円墳です。古墳の周りには、二重のほり（周濠）をめぐらしており、また、外ほりと内ほりの間には、土を盛って低い堤（周堤）を築いています。古墳全体の大きさは、直径70mにもなり、一部は大野原小学校の校庭にまでおよんでいます。



現在の椀貸塚古墳



椀貸塚古墳の復元イメージ図



Q2 椀貸塚古墳の石室は、どうなっているの？

A2

石室は、全長約14.8mで最大高は約3.9mもあります。この古墳の特徴は、羨道（通路）の奥が玄室（後室）と前室の二つに分かれる形（複室構造）で、かんす塚古墳の石室の形をひきついでいます。



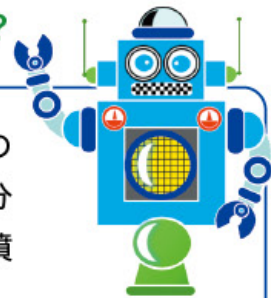
椀貸塚古墳の玄室の内部

さらに、棺をおく玄室は、長さ6.8m、幅3.6m、高さ3.9mであり、床面積24.6㎡、空間容積72.7㎡という巨大な大きさです。



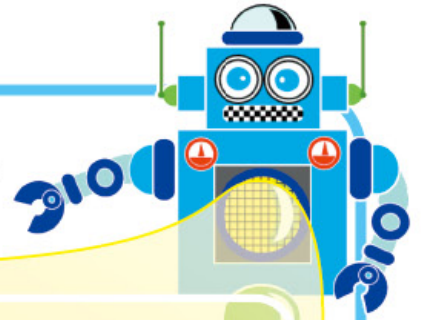
椀貸塚古墳の玄室の入口

これは、四国で最大規模の横穴式石室で、6世紀代における我が国トップクラスの大きさです。



コラム 椀貸塚古墳の名前の由来

椀貸塚古墳には、椀貸伝説が残されており、それにちなんで古墳の名前がついたといわれています。



ずっと昔、椀貸塚の近くに住んでいた一人の百姓がいました。その人は気立てがよく正直で信心深い人で、毎日椀貸塚にお参りしていました。ある年の春、その人の家で法事をすることになりました。家が貧乏なため、食事をあげるのに使うお膳もお椀もありません。ある日、いつものように椀貸塚にお参りしたその人は、思わず、悩みを目に見えない塚の主に打ち明けました。

翌日の朝、椀貸塚にお参りに来ると、驚いたことに塚の入り口にお膳とお椀が十人前ほど、きちんと置いてあります。塚の奥に向かって頭を下げ、お礼を言って法事に使わせてもらいました。そして、きれいに洗って、大事に元の通り塚の入り口に返し、改めてお礼を何度も言いました。

このことは、村の人に次々と伝わり、今まで以上に椀貸塚を信仰するようになるとともに、婚礼や法事などの時にはお願いしてお膳やお椀を借りていました。しかし、ある時、借りていた百姓が借りたお膳やお椀を洗っているとき、お椀を一つ取り落として欠けて使えなくなりました。仕方なく欠けたお椀を残して、塚の入り口にお返ししました。そんなことがあってから、お膳やお膳は貸してくれなくなりました。

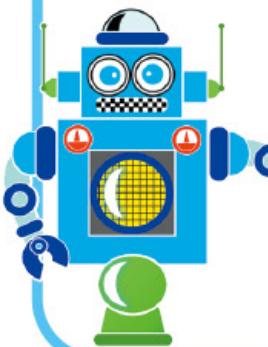
『ふるさとむかしむかし』大野原町より

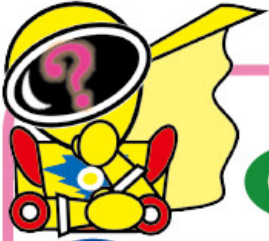
椀貸塚古墳からは、1400年前の土器である須恵器が発掘されていますが、そのようなところから、この椀貸伝説が生まれたのかもしれませんが。

コラム 椀貸塚古墳の奥壁 原寸大の模型

『ふるさと学芸館』には、椀貸塚古墳の四国最大規模である横穴式石室の奥壁の原寸大模型が展示されています。

レリーフ模型ですが、横幅約3.5m×高さ約3.8mの大きさを、自分の大きさと比べながら体感してみましょう。





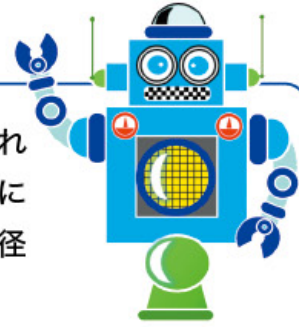
② 平塚古墳

かがわけん さいだい おおがたえんぶん
香川県最大の大型円墳

Q1 平塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1

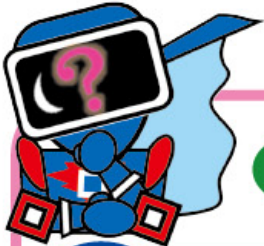
7世紀初めごろつくられた直径50.2mの円墳^{えんぶん}です。これは、香川県にある円墳としては最大の大きさです。古墳の周りには、幅8.4mのほり^{しゅうごう}（周濠）がめぐり、古墳全体の大きさは、直径66.7mになり、椀貸塚につぐ大きさです。



現在の平塚古墳



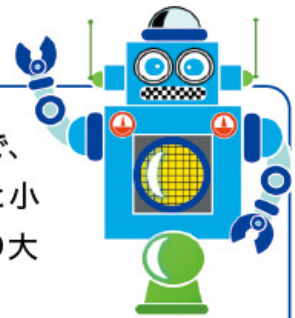
平塚古墳の復元イメージ図



Q2 平塚古墳の石室は、どうなっているの？

A2

石室^{せきしつ}は、羨道^{せんどう}と玄室^{げんしつ}からできており、全長は約13.2mで、最大高は約2.6mあります。石室の規模^{きぼ}は椀貸塚古墳と比べると小さくなっていますが、使われている石は、椀貸塚古墳のものより大きくなっています。



平塚古墳の玄室の入口

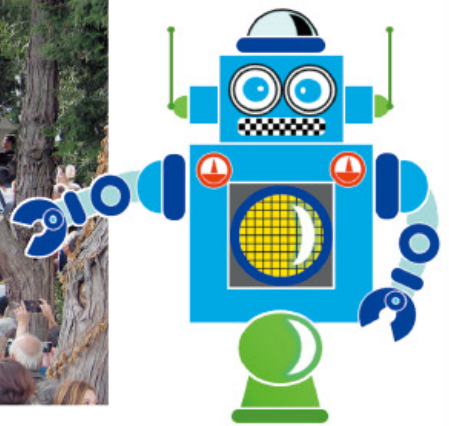


平塚古墳の玄室の内部

コラム 秋祭りひらづか 古墳でにぎわう平塚古墳

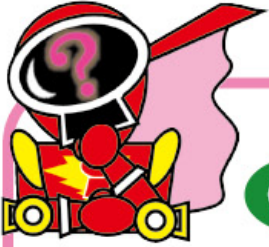
平塚古墳の周りは、大きな木でおおわれていますが、他の古墳と違って古墳の頂上
に上がることができる太い道がついています。その道を上がると、頂上は平らになっ
ていて、石の台のようなものがあります。

現在、平塚古墳の頂上は、おおのほらはちまんじんじや おたびしよ大野原八幡神社の御旅所になっており、毎年秋になると、
古墳の周りにはたいこだい太鼓台やだんじりがたくさん集まり、地域の方々がお祭りをするなど、
今も地域の生活とつながりの深い古墳です。



平塚古墳での秋祭りの様子





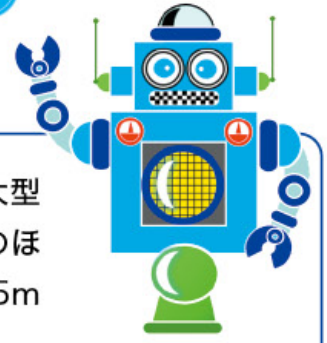
③ 角塚古墳

ピラミッドのような形の大型方墳 おおがたほうふん

Q1 角塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1

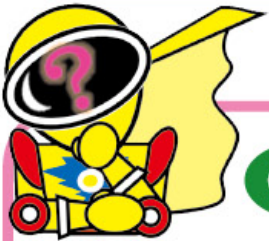
7世紀前半ごろにつくられた縦41.7m、横37.8mの大型方墳で、その大きさは県内最大です。古墳の周りには、幅7mのほり（周濠）がめぐり、古墳全体の大きさは、縦48.4m、横44.5mもあります。



現在の角塚古墳



角塚古墳の復元イメージ図

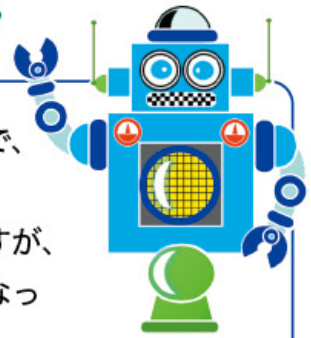


Q2 角塚古墳の石室は、どうなっているの？

A2

石室は、羨道と玄室からできており、全長は約12.5mで、最大高は約2.4mあります。

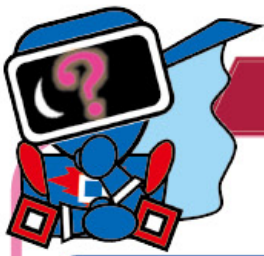
玄室の規模は、他の二つの古墳と比べると小さくなっていますが、羨道は長くなっています。また、玄室の内部はきれいな箱型になっており、とても大きな石を組み上げて石室をつくっています。



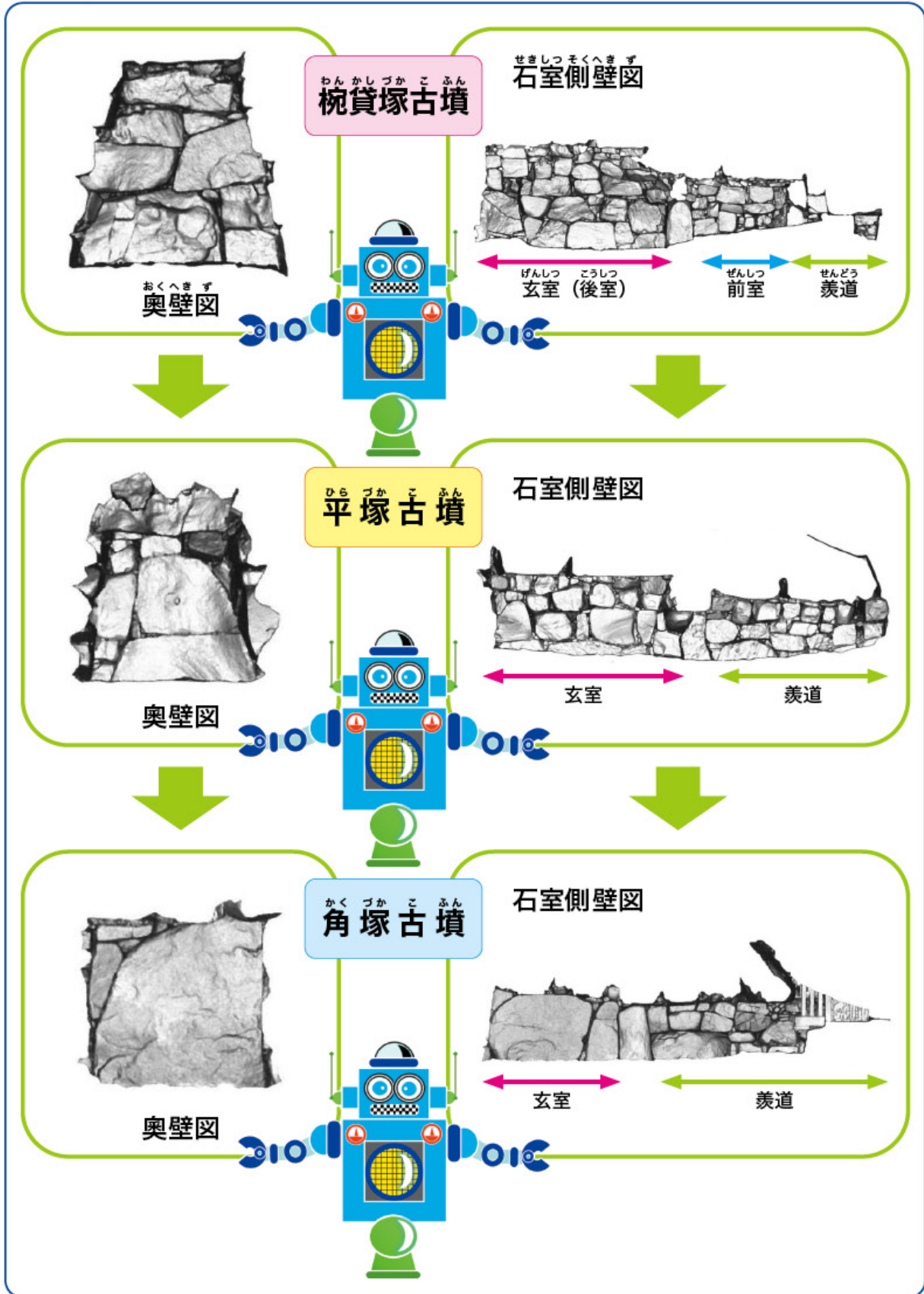
角塚古墳の玄室の入口



角塚古墳の玄室の内部



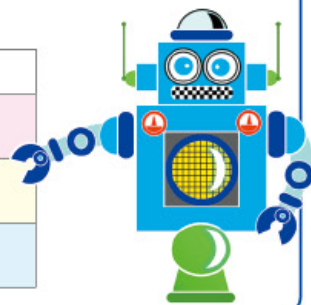
④ 3基の古墳は、どのように変わっていくの？



3基の古墳ともに四国内でも最大級の横穴式石室を備えています。古墳がつくられた順に比べてみるといろいろなことが分かってきます。

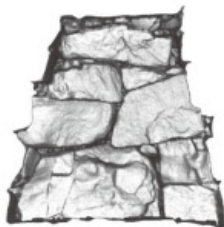
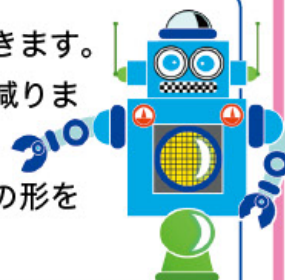
1つめは、石室の大きさがだんだん変わっていきます。前ページや下の表を基に石室の大きさを比べてみましょう。石室はしだいに小さくなっています。また、部屋が二つある形式から一つだけの形式に変わっていきます。

古墳名	石室の構造	石室の最大高	石室の全長
わんかしづかこふん 椀貸塚古墳	ふくしつこうぞう 複室構造	3.90m	14.83m
ひらづかこふん 平塚古墳	たんしつこうぞう 単室構造	2.64m	13.22m
かくづかこふん 角塚古墳	単室構造	2.37m	12.54m



2つめは、石室に使われている石の大きさがだんだん変わっていきます。前ページの石室の横の壁の様子を比べてみると、石積みの段数は減りますが使われている石一つ一つの大きさは大きくなっています。

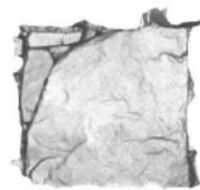
3つめは、石室の形がだんだん変わっていきます。石室の奥の壁の形を比べてみると、台形からきれいな長方形へと変化しています。



わんかしづかこふんおくへき
椀貸塚古墳奥壁



ひらづかこふんおくへき
平塚古墳奥壁



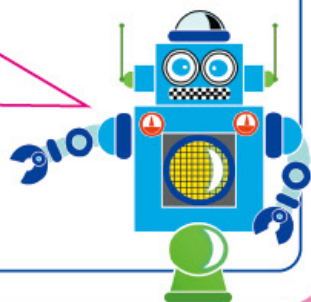
かくづかこふんおくへき
角塚古墳奥壁



3つの古墳の様子は、上のQRコードで見ることができます。

このように古墳の変化がはっきりと分かるのが、大野原古墳群の大きな特徴です。また、このような石室の構造の変化から、大野原古墳群が、九州地方の古墳の影響からしだいに近畿地方の古墳の影響を受けているとの説もあります。

スマートフォンやタブレットなどで、大野原古墳群を紹介するサイト「おおのほら探訪. ネット」を見ることができるよ。





⑤ 岩倉塚古墳

新たな国史跡に指定された大型円墳

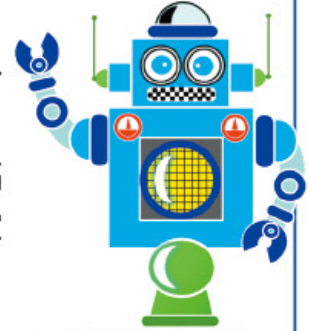
Q1 岩倉塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1

腕貸塚古墳の外ぼりの一部をおおいかぶせるようにしてつくられた古墳です。

この古墳は、6世紀の終わりごろ、腕貸塚の後につくられたと考えられています。これまでの調査によると、この古墳は、少なくとも直径30m以上の大型の円墳であったと推測されます。

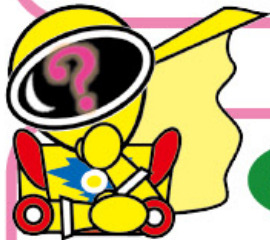
また、横穴式石室があり、玄室の規模は長さ4.5m以上、幅2.3m、高さ2.9mもあり、かんす塚古墳と同じ規模の大型石室であったことがうかがえます。



現在の岩倉塚古墳



岩倉塚古墳の玄室



Q2 岩倉塚古墳からは、どんなものが出てきたの？

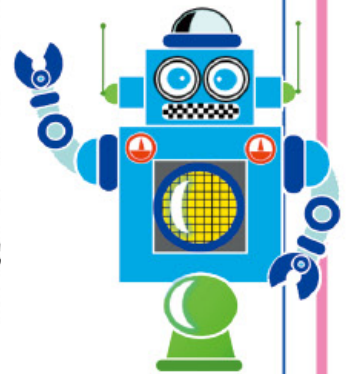
A2

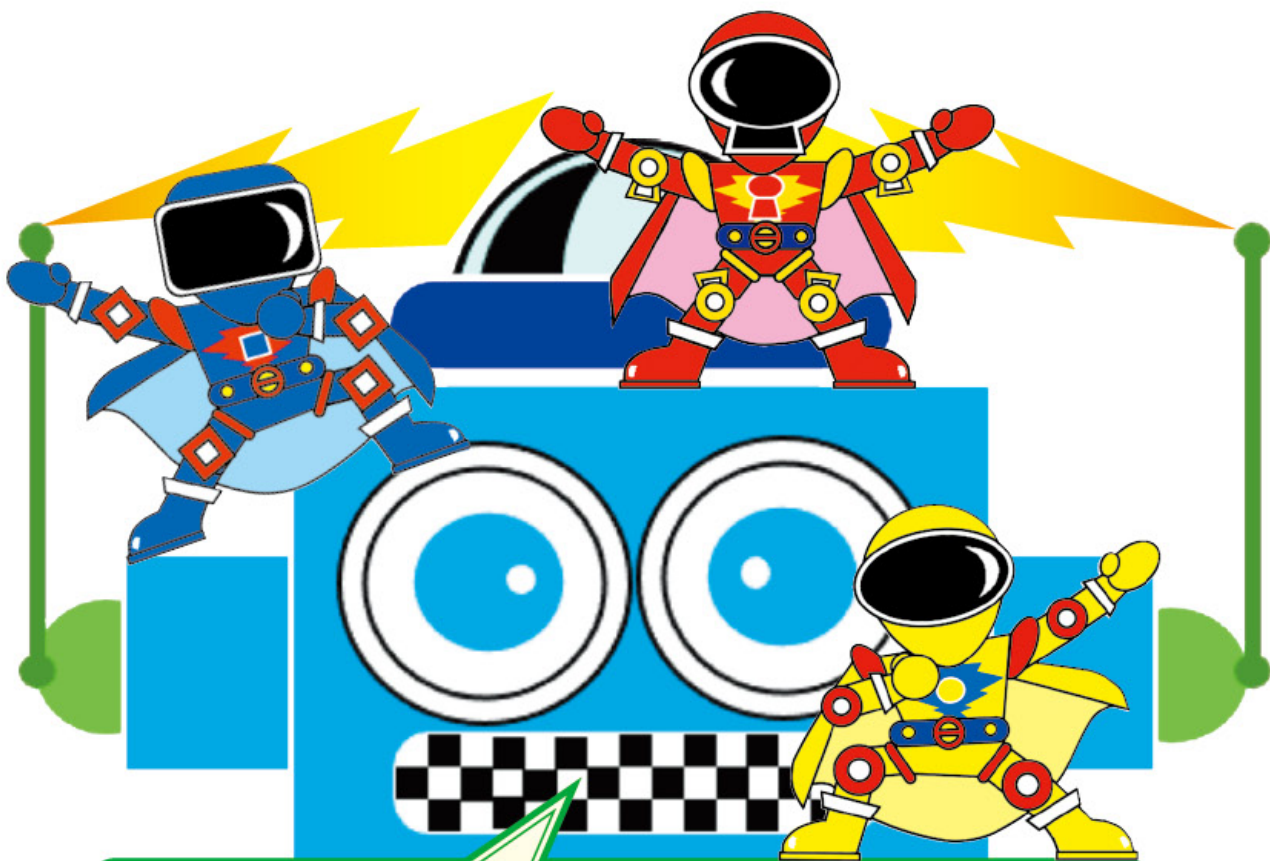
発掘調査の時には、石室の内部に玉砂利の層が現れ、その石の一つ一つにお



出土した「一字一石経」

経に関する「法」「佛」などの文字が書かれていました。これは、一字一石経と呼ばれるもので、江戸時代の人々が願いをこめて納めたものです。このことから、岩倉塚古墳は、後に地域の人々の信仰の対象となっていたと考えられます。





みなさん、わたしたちとの古墳探検こふんたんけんはどうだった？

古墳のことを学んでみると、驚おどろいたことや感動したことがたくさんあったと思うよ。また、新たな謎なぞやさらに調べてみたいこともたくさん生まれてきたんじゃないかな。

観音寺市の古墳には、まだまだたくさんの謎が残されているんだよ。みなさんが、これからも古墳や『ふるさと学芸館』での見学・体験などさまざまな探究方法たんきやうで、新たな古墳の謎解きなぞとに挑戦してくれることを願ってるよ。

さあ、再び古墳の謎解き探検に出発しよう！！

編集・執筆者

安藤 通 柴田 英明 高橋 克佳 眞鍋 英和

観音寺市 古墳ガイドブック

発行 令和2年3月
編集・発行 観音寺市教育委員会
印刷・製本 株式会社 三豊印刷



つかこふん げんしつ
かんす塚古墳の玄室